

日本教育大学協会が附属学校連絡協議会を開催

日本教育大学協会（会長＝國分充・東京学芸大学長）は、6月3日（土）に全国国立大学附属学校連盟との共催により、附属学校連絡協議会をGメッセ群馬（群馬県高崎市）において開催し、附属学校園の校園長・副校園長をはじめとする関係者約200名が出席した。

開会の挨拶で國分会長は、「本協議会は、学校教育及び附属学校における教員養成の諸問題について協議を行い、附属学校の充実を図ることを目的としている。昨年度はWebでの開催だったが、本日は令和元年度にさいたま市での開催以来久しぶりに対面での開催となった。日本教育大学協会の常置委員会である企画・調査研究委員会では、国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループを設置しており、昨年実施した『国立大学附属学校自己点検・評価』の実施結果がまとめられた。この自己点検・評価が今後の附属学校の充実を図るうえで、その一助となれば幸いである。今後もこのような活動を通じて、全国の附属学校が、国や地域の期待に十分応えられるように附属学校本来の役割と意義を発信していきたい。」と述べた。

その後、仲村健二初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長からいじめ対策・不登校支援について、小畑康生総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室長から国立大学附属学校の今後の在り方について施策説明があった後、吉田裕亮国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループ座長（お茶の水女子大学附属高等学校長）から、日本教育大学協会企画・調査研究委員会国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループの進捗状況について、報告があった。

【会場の様子】

